

矢作川流域圏懇談会「第4回市民会議」開催報告

1. 実施概要

(1) 実施概要

- 実施日時：平成24年12月12日(水)
18:00～20:15
- 開催場所：
豊田市福祉センター4F 41会議室
- 参加者：29名

(2) 内容

【プログラム】

1. 座長あいさつ
2. 本日の進め方
3. 3ヶ年の活動総括（案）について
4. 話し合い
 - (1) 3ヶ年の活動総括と今後の運営方針
 - (2) 山・川・海部会の連携のあり方
5. 全体発表



山部会会議風景



川部会会議風景



海部会会議風景

2. 主な会議内容

第4回市民会議では、3ヶ年の活動総括と今後の運営方針及び山・川・海部会の連携のあり方についての意見交換を行った。話し合い結果をまとめたものを以下に示す。

- 山・川・海部会の活動の総括のポイントは以下のとおりである。
 - 山部会では、特に新たなメンバーが仲間入りしたことが成果であった。
 - 川部会では、関心ごとが違う人が集まって現地を歩きながら、課題を見つけ、具体的な話し合いができるようになったことが良かった。
 - 海部会では、参加者が少ないことが問題であったが、漁協とも話をする機会ができ、ごみ・流木問題を一緒に考えていく必要性を確認できたことが良かった。
- 流域連携に向けては、山、川、海部会のメンバーが合同で意見交換を行うことによって、問題意識を共有していくことの必要性を参加者で共有した。部会別の連携提案として以下の意見が出された。
 - 山部会からは木づかいをどう進めていくかを考えていきたい。また、懇談会自体のPRについても考えいきたいという意見が挙げられた。
 - 川部会からは、河床アーマーコート化や瀬淵など魚の棲みやすさにかかわる土砂供給について流域で考えたい。また、山、川、海の共通課題として、ごみ、流木、土砂などの問題があることから、まずはそれらの情報共有（勉強会）からできればよいという意見が挙げられた。
 - 海部会からは、海の恵みを保つために重要な上流から流れてきて欲しい「土砂」や海の生き物の生育に係わる「栄養塩」などの情報共有が意見として挙げられた。

3. 開催内容

(1) 座長あいさつ

市民会議座長である碓さくら氏よりご挨拶を頂いた。

(2) 本日の進め方

本日の進め方として、山・川・海のメンバーによるグループワークで行うことを事務局より説明した。

(3) 3ヶ年の活動総括（案）について

3ヶ年の活動総括について、市民会議の役員より報告を行った。



碓座長あいさつ

○山部会活動総括（黒田氏）

- ・ 山部会では、3年前に懇談会が始まった時に、山村の再生なくして山の再生はありえないというところから出発し、この3年の中で、山村の再生を目指して活動をしていく様々な事例を集めることで、多くのことが学べると考え、山村再生担い手づくり事例集を作成することとなった。
- ・ また、山の森を再生するには、の森が切られた後のことも考えなければいけないということとを共有し、森づくりのガイドラインと木づかいのガイドラインを作ろうということになっている。
- ・ 懇談会では、豊田、岡崎、根羽・平谷、恵南地区をモデル地域に選定して、ワーキングを進めていく中で、行政や森林組合、Iターンで移住してきた人たちなど、新たに懇談会に入りたいという人が幾人も出てきたところに、懇談会を積み重ねてきたことの成果が出てきつつあると思う。
- ・ 来年度以降は、これに大きな果実をつけるよう発展させていきたいと思う。

○川部会活動総括（光岡氏）

- ・ 22年度は、矢作川流域圏といっても、上流から下流まで景色も異なる広い範囲であること、それぞれの地域で活動している参加者が持っている関心事が非常に多様なことから、課題も本川と支川、川とまちとして整理をするという段階で終了した。
- ・ 課題整理に向けての方向性が見えるきっかけとなったのが、23年9月の2日間にわたるバスツアーであった。豊橋河川事務所が行っている河道掘削、堤防整備、干潟・ヨシ原再生などの事業と連動した課題からまずやってみようということで、魚の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題と、地先の課題としての河川空間の利用・保全のあり方の2つを設定し、課題の焦点化を目指した。
- ・ また、2つの課題についてモデル地区を設定し、現地を歩きながら課題を見つけて、できる取り組みから行なうことにした。
- ・ 24年度は、現地を見た上で、具体的な話のできる検討会ができたと思っている。ピンポイント的な事柄や、相矛盾する解決方向への意見も出されたが、座長、副座長に指導を受けながら、自分たちの意見を系統的に意義あるものに位置づけをしてもらった。

- ・ さらに、各市町の行政の方々にも多くの参加を頂き、その時々には貴重な資料やデータも提供して頂いた。
- ・ 現地の状況を見て、より具体的な事柄について話し合うことの意義は大変大きいとされているとともに、川部会の解決課題としての整理も少しずつ出てきたと思う。

○海部会活動総括（井上氏）

- ・ 今日の人数が示しているとおおり、海部会の関係者はなかなか参加が難しい。
- ・ 山村はそれだけ危機感が大きいですが、海は何となく成り立っているのでは住民が別に困らないということは何となく反映をしているのではないかと。
- ・ 昨日の勉強会では、矢作川河口部のアサリは、各地で産まれた赤ちゃんが湾全体を動きながら辿りつき着底していくので、三河湾全体を良くしないと豊かな海にはならないという結論であった。
- ・ 海では、全員が考えるということが、3年目で少し先が見えたかなと思う。
- ・ 3年目の中で一番大きかったのは漁協と話ができたことである。漁業者は、流木の被害が非常に多いことに困っている。海部会では三重県の答志島の奈佐の浜で行っている活動に参加しており、ゴミ・流木の問題を今後、漁協と一緒に取り組まなくてはいけないことがようやく明らかになってきた。
- ・ また、青潮や赤潮などの課題についても情報提供をしていきたい。特に赤潮の問題解決は、森・里・海の連携がないと前進しない。
- ・ 来年度以降は森・里・海の連携のひとつとしてしっかり見ていきたい。
- ・ また、矢作川の土砂をどうするといった話題にも目を向けながら、次の3年間に向かっていきたいと思う。

(4) 話し合い

話し合いのテーマとしては、3ヶ年の活動総括と今後の運営方針として、課題解決に向けた提案や今後関わりたいこと、他の部会の人と一緒に考えたいことを話し合った後、山・川・海部会の連携のあり方について、意見交換を行った。

話し合いの進め方は、まず部会別に意見交換を行い、その後部会メンバーがそれぞれ混ざり合った、3グループで行った。

課題解決に向けた提案や今後関わりたいこと、他の部会の人と一緒に考えたいことについては以下のような意見が出された。

1) 課題解決に向けての提案、今後関わりたいこと

○山部会

① 全般

- 森林の保全、水源・防災、住む、仕事の関係を支



会議風景（部会別）



会議風景（部会合同）

え、まわすしくみが必要。

- 市民、行政、学識者で意識のギャップがあり、そこを埋めていくことが必要。
- 市民がさらに主体性を持ち、発揮できるよう努めたい。
- 山主にも関わらず山に興味がない人が多すぎるので、山主を対象とした森の健康診断を行ってほしい。不在所有者対策も必要である。

●

② 山村再生担い手づくり事例集

- 山を守るには、やはり「人」が住んでいける条件を守っていくことが必要。
- 若者が住みついて、安定した生活（子育ても含む）をつくりあげていける、山仕事の堅実なあり方を考えていきたい。
- 黒田氏にリーダーシップをとってほしい。
- 作成を通じて人の輪を広げたい。

③ 森づくりガイドライン

- 山村再生を主とした森林再生は、人口減少対策であり、森林組合及び森林所有者との協働が必要である。
- 将来に向けた森林資源のあり方について、実際に森林に深く関わる林業人として考えたい。
- 雨量や水位、土砂のデータについては提供したい。

④ 木づかいガイドライン

- 生き残ることがミッションであり、ガイドラインをつくりながら、自分たちの後を追う者の育成を行っていきたい。
- 木づかいガイドラインの作成に向けて、まずは、根羽村内に対し、流域圏の広告宣伝活動をしていきたい。

○川部会

① 全般

- 各活動団体に呼びかけ、本川、家下川の現地調査や活動に参加してもらい、この懇談会の情報発信をしたい。
- 各活動の整合性を見ながら、互いに副作用が出ないようにする必要がある。
- 懇談会として成果をあげて、達成感を味わうことによって継続する。
- 各取り組みを誰がやるか、WGメンバーだけでなく、他の市民団体などにも呼びかけ、連携していくことも考えられる。

② 在来種・外来種

- 外来種対策について、可能であれば、今後にかいぼり調査に協力していきたい。
- 在来種の現状調査への協力や外来種駆除の協力を行ないたい。

③ 生き物の移動阻害

- 魚の移動阻害をなくすため、調査と評価をし、関係諸団体へ提案する。
- 矢作川と家下川の合流点での魚の遡上の種類を確認する。
- アユの遡上・遡下に協力する。

④ 河床のアーマーコート化

- 河床のアーマーコート化について、可能な限り情報共有したい。
- ダムの現状とこれからの展望を勉強したい。(情報の共有と問題点の解決に向けて)

⑤ 川の微地形の多様性消失

- 川の形状は、整備が進むにつれて、瀬淵・ワンドが縮小化し、生物の生息環境が単調化しつつあるのではないか。また、生息数の減少もあるのではないか。

○海部会

① ゴミ、流木の調査

- 市民活動として、ごみを片付けていくことを進めていきたい。
- また、流域圏懇談会は、様々な人が入り産学官連携のような形にあるが、ごみ、流木清掃などには、産（地元企業等）にも入ってもらって対応を一緒に考えて行きたい。

② 生き物調査など（海の豊かさ指標検討）

- 海の生産性に係わるケイ素の相対的な不足についても情報を共有したい。
- 技術市民の立場から、三河湾のデッドゾーンについては水産試験場からも情報発信された問題であり、皆が同等程度の危機感を持つために情報発信をしていきたい。

③ 海と人の絆再生にも関わる流域連携

- 様々な立場の多くの人が、山、川、海は一体であることの認識を深めることが大切である。
- そのためには、こうした山、川、海地域の人達が交流しながらお互いが抱える問題を共有できる場で、一緒に考えていくことが重要である。

④ 干潟再生、ヨシ原再生

- 三河湾のアサリは、六条潟の稚貝が各地に供給され生産性を上げてきている。青潮発生時など六条潟の稚貝の大量へい死が起こると矢作川河口部干潟の稚貝が次の採捕地として非常に重要な意味を持っている。

2) 他の部会と一緒に考えたいこと

○山部会からの意見

① 全般

- この懇談会をどのようにPRしていくか、流域圏の思想をどのように広め、定着させていくかをそろそろ考えていきたい。
- 流域圏の課題をどのようにして共有していくかを考えていきたい。
- 土砂、水（水量、水質）、木づかい（都市市民）は連携できると思う。

② 山村再生担い手づくり事例集

- 山だけでなく、川、海の再生担い手事例集もつくることを通じて流域連携を行っていききたい。

③ 森づくりガイドライン

- 森林再生と水質保全（土砂）について考えたい。

④ 木づかいガイドライン

- 川、海（まちも）の現場での流域材（原木、薪炭）使用を進めるにはどうしたらいいか。
- 木に親しむ場面、木を利用できる場面を共に検討したい。
- 絆づくりのキックオフイベントとして、山、川、海をつなぐマラソン大会を実施したらどうか。
- チップ材や木工沈床にも活用してほしい。

⑤ その他

- 答志島には、どんな流木が流れているか。それは、どこから流れ出しているのか。（矢作川では明治用水頭首工下流の河畔や明治用水頭首工下流で合流する支流の河畔か）

○川部会からの意見

① 山・川・海に共通する問題

- 山・川・海の課題とその関連性について各部会で解決せず、しっかりした意見交換をし、問題点を共有する場を設けてはどうか。
- ダムの現状と今後の展望について、情報共有を進めながら、ゴミ、流木、流量、水質などについてできることを探す。
- 森からの土砂・流木、川の流量など、土砂の問題とゴミを見れば、山・川・海がつながっていて、問題点が浮き彫りになる。
- 先生グループをつくり、もう少し科学的に理解しながらできるとよい。

② 土砂供給

- ダムのメリットをもっと発信（市民がダムの必要性を認識）した上で、山からの土砂供給のあり方などについて、皆で検討するとよいのではないか。
- 山からの土砂供給（大きな石）が、どうしたらうまく川、海へ土砂が供給できるか？

③ ゴミ

- 海のゴミ削減と連携を考える。

○海部会からの意見

① ゴミ

- 河川敷内の草木及びゴミを調査すること、片付けていくこと

① 海の生産性に係わる課題共有

- 海のケイ素の相対的な不足についても知って欲しい。その最も大きな解決策は森林、田畑の健全化だと思っている。ヘテロカプサ赤潮が出れば、二枚貝資源は消失する。
- 間伐を進めること等は結果的に流木を減らし、濁水を減らすことになる。やや専門的になる話であるが情報共有していきたい。

② 海と人の絆再生にも関わる流域連携

- 干潟の重要性の理解を深めるためにも、海の恵みなど生産物の交流・流域内での地産地消を進めていきたい。

③ 土砂管理

- ダムの砂を下流部に健全に流してもらうことができるかを一緒に考えたい。
- 上流のダムでの砂の様子、山の様子を実際に現地を見て、話を聞き体感することで問題の理解を深めたい。

(5) 全体発表

各テーブルの進行役より、各テーブルで出された意見について発表して頂いた。

○山部会発表（黒田氏）

- ・ 山の人間が海や川のことをよく知ろう、川の間人は山や海のことをよく知ろう、海は山や川のことをよく知ろうということから始め、連携なしに話は進まないという共通認識で盛り上がった。
- ・ 具体的には、年に2回ぐらい山・川・海の連携で何か集まりを持とうということ、現場を見るのが一番であり、山のことを理解しようと思ったら、海や川のことを知らなければだめだ、お互いに知り合おうということをお話した。
- ・ その根底には、人間関係をもっと深めたいということがあったと思う。
- ・ 忌憚なく腹藏なく話し合い、問題点を掘り下げられるということ、参加者の皆さんが願っているということがよくわかった気がした。



全体発表（黒田氏）

○川部会発表（光岡氏）

- ・ 3つの部会の共通認識としては、ゴミと流木と土砂の問題があげられた。
- ・ それらのことを解決していくのに、例えばゴミなどを出さない、流木を出さない方法を考えることもあるが、地産地消の観点もあるのではないかと提案があった。
- ・ これまで土砂の勉強会は行ってきたが、ゴミ・流木については、まだ勉強会を行っていないので、次年度以降、それらの発生源を話題とするような勉強会ができればいい。
- ・ また、土砂については、川、海にとっても必要な財産だということをもっと認識してほしいという意見もあった。



全体発表（光岡氏）

○海部会発表（井上氏）

- ・ 今後、課題解決を進めていくためには、流域連携しかないというのが総括だと思う。
- ・ 山から言えば下流に木を使ってほしいということがあり、川はいろんな人がいるので、意見の集約を今後もきっちり続けて連携していくということだと思う。



全体発表（井上氏）

以上